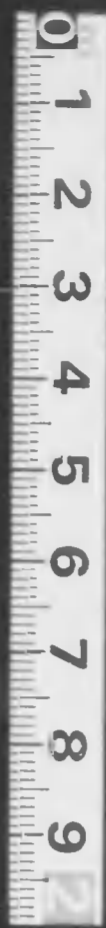


寫眞週報

情報局編輯
七月八日 第二廿八號



攻略詳報



米も麻も甘蔗もゴムも
いきいきと延びてゐる
逞しい南方建設におくれをとるな
大東亞の指導者としての
心の用意はよいか
先づしつかりと自分を磨き鍛へよう



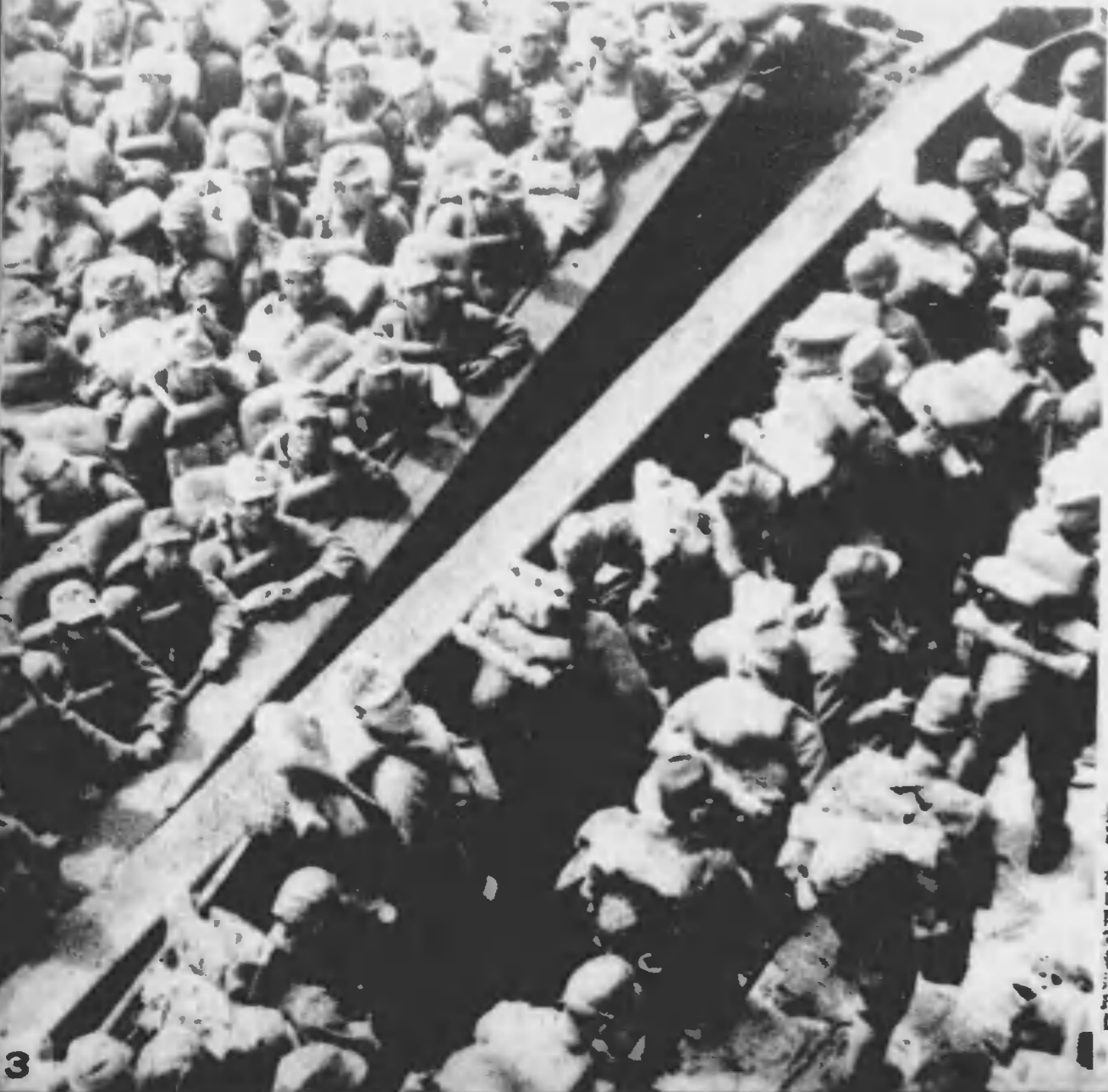
雪の濃霧地帯へも
アリューシャン攻略詳報

濃霧は深く、重く、暗緑色の海はうねりだうねつた。まことに、狂瀾怒濤の名にあたりする北洋の
戦況を聞いて、わが輸送船團はキスカへ、アツツへ進航する
撮影 陸海軍報道班員



帝國陸海軍部隊は六月七、八の兩日に亘つてアリューシャン列島の最西端アツツ島(熱田島)及
びキスカ島(鳴神島)を奇襲占領した
この兩島攻略は六月四日のダッチハーバーの惨憺と相俟つて米國の太平洋北方對日進路を寸断
し去つたものである。アメリカは戰前アリューシャン列島をもつて日本の鼻先に突きつけた「始
の線」と呼び、同列島に構築した飛行機、潜水艦の基地を心頼みに、未だ北方に對日反撃路ありと
考へてゐた。しかし敵側が進んでゐたこの心頼みはわが鋭い奇襲の前に、瞬時にして消え去つたの
である。今や對日進路の一切を失つたアメリカは、机上に擲けられた作戦地圖を顧んで、徒らに
長嘆息を洩らす外はないのである。これに引きかへ、わが方のアリューシャン列島の制壓は實に北
方敵本土に新たな快報地を確保し、北米本土に對して斷々平たる攻撃態勢をとり得ると同時に
わが北の護りはよく固壁の固さを加へたのである

輸送船をなれてアツツ島をめぐらして進んだ舟艇はサツと一齊に海岸に突込んだ。
時に六月八日第六回大詔奉讀日の夜明けである
撮影 陸海軍報道班員



キスカ島占領

六月七日



〇 旅費を費ひ、小銃を焚つて、勇士は歩きにくいこと等しい。海岸の灘地を踏み、積草を没するツンドラ地帯を征き、その間にここまで足に立つはとらゝ、風雨のやうな騒ぎを繰り返して進む。

〇 逃げ残れた敵守備兵のゴップ、イルドとロンを捕へて訊問してみた。住民は何人か？ 十八人、女は一人もゐない。お前の雇はれてゐる会社は？ 会社ではない、ネーヴィー（海軍）光臨等は好きか？ 嫌ひだ。



〇 軍艦隊は白雲に映え、陸隊隊勇士は上陸に成功した。ガスは煙幕の目的地を深々と包んでしまつてゐるが、敵情はどうか、砲撃隊の眼は炯々と霧を通して光つてゐる。



〇 キスカ島攻めに参加のわが海軍大飛行機は巨大な翼をくつと張つて、機内に着水した。陸隊を導く大軍艦隊を機がくつと見守つてゐる。

アッツ島も占領

六月八日



神山陸軍病院
 の前でサリ／＼倒つたやうな被害者の行列を通過して、山
 の頂上はガスで見えない。兵士は梯子をかけた。そして、敵軍
 の遺体を一歩々々運びつてゆく。



〇サリとガスが降れた。小手をかきして見れば、山頂から敵の
 隊方の旗まで敵軍の行列は傾斜をたどって、まるで白濁の上に平
 子粒を一粒一粒に降らしてゆく。



〇「大急ぎで」敵の列のやうにつく敵軍は別個に兵士を
 つた、倒つた土の上に乗せられて倒つた山頂を敵軍の兵士がこ
 の際、敵軍のわれ／＼に何の不平も構わらなかつた。



〇山頂は歩いていても、マラソン後の疲労は歩いては下れな
 い。くつと雪の上を歩くと、そのまゝ、一歩に二三メートル
 トルも滑り降りる。

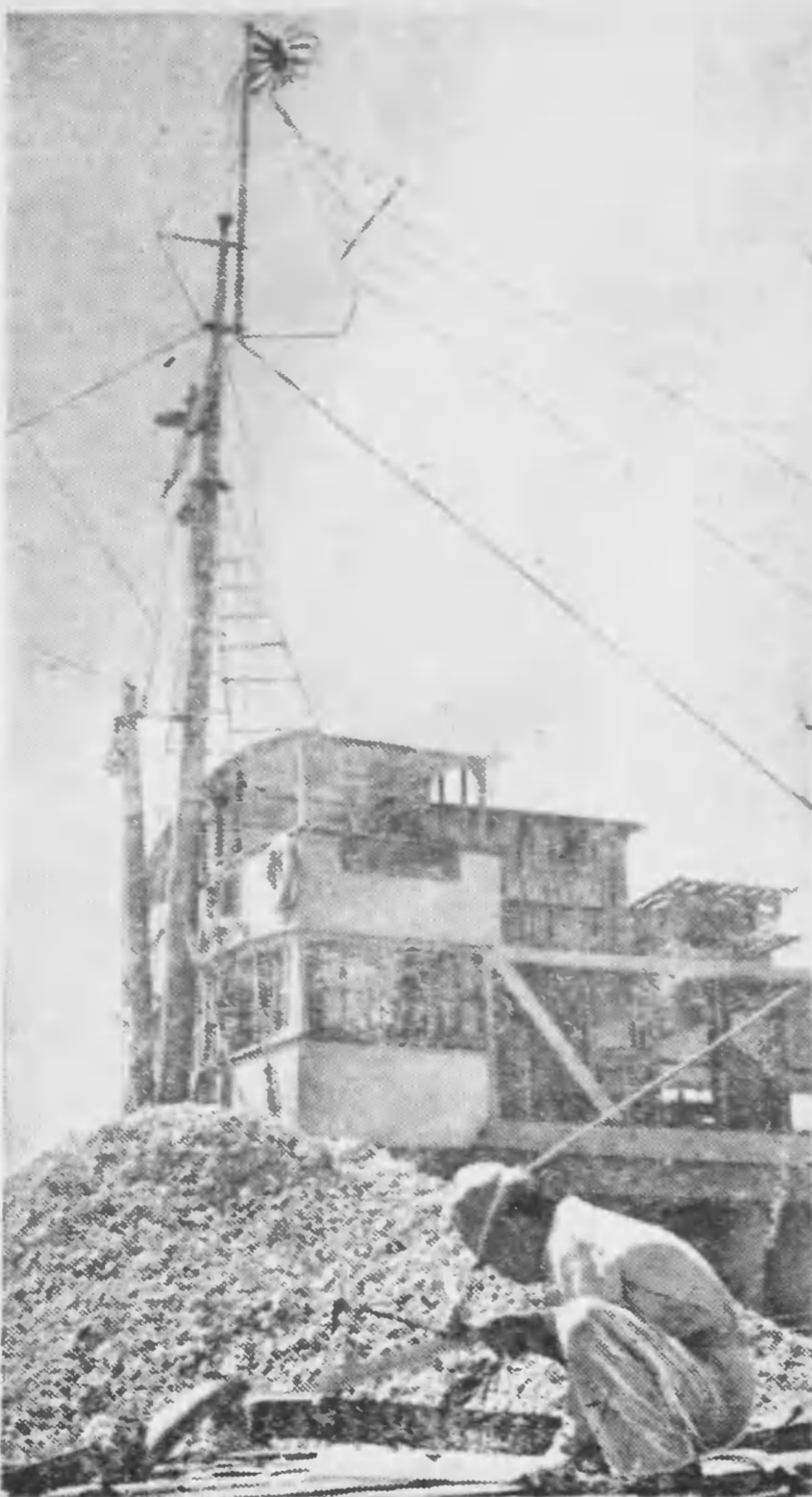


手を挙げ、善悪に構へないで出てきたマキヤンの守衛隊
 員たちはしかし、非難轟々に対する兵隊の指図を加つては
 と安心した。最初に子供が泣き、やがて母親も泣きだ



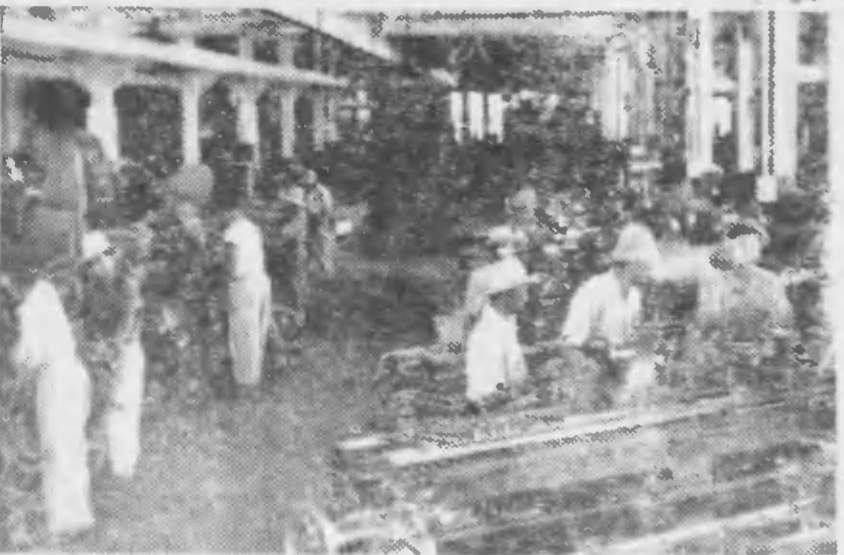
焦大に萌える。比島キャビテ軍港復興

焼け残り残存して生命を保持した種子のみに、敵が敗走に
 立って放つた火の無情な力がまさしくと燃焼されてあ
 る。しかしこの種子も比島の地力によって固くたくましく
 成長を遂げることであろう。



焼け跡は、片づけを積極的に申し出た比島人によって徐々に清掃されてゆく

戦火の中から立ち上ったフィリピンは、政治に、経済に、
 文化に、毎年のアメリカを象徴するマニラの獨立國といふ
 精神に燃え、素晴らしいテラポで建設に邁進してゐる。
 軍事の軍政に全面的な協力を惜しまないマニラ市長アル
 ガス氏によつて立法議會は解散され、制度的にまづ半民主
 主義によるものとした。そしてまた中央行政機構は財政の基
 礎をかためるために監理品三割、準備品三割といふやうに
 新物徴収を課し、この税に並行して差利取極令を用いて買占
 め、徴借しみを禁止し、タバコやマツチなどの生活必需品に
 は固定価格を定めた。
 かうして政治経済の復興ぶりに續いて去る六月一日には、
 約半歳に亘つて閉鎖されてゐたフィリピン小學校のちか立
 小學校再開され、一週二時間の日本語が正課として採用さ
 れるなど東亜共榮圏の一環としてフィリピンは本格的な歩
 みを進めてきた。



復興だ、アジアのフィリピンへの門出だ。堅実な復興作業は進む



無事だった港内の工場では布が海軍持
 持者の指導で力強く操業が始められた

マカッサルの更生車



三 邦 凌 員 軍 報 報 報

×× 南進日本の姿 ××

九州の南端から、セレベス島の首都マカッサルまでの距離は、約三千三百七十里——里數にして約千六百八十五里——赤道を通過して、マカッサル海峽を南下すること三百六十マイルである。

内地の人達の頭脳には、樺太や臺灣が非常な遠方のやうに撞あつておられた。ところが、米英に宣戦が布告されて、南進を開始した日本は、赤道を越えて南緯十度に達し、九州の南端から三千三百七十哩の距離にあるセレベス島のマカッサルはすでに最前線ではなくなつてゐるのだ。

巨大な支那大陸を片手で押へて英領香港、マレー、ビルマ、ボルネオ、米領フィリピン、蘭領ボルネオ、セレベスを占領して、日章旗をジャバにまで押し進め、いまやインド洋に、オーストラリアに作戦してゐるのだ。

なすで敬愛して、こんちわア——よく廻らない舌でいつて、にっこりと笑ひかけた。子供は濁りのない澄んだ瞳を向けて、溶けさうな笑顔であつた。見らしいも親しげに合辭したし、母親もつゝまじい微笑であつたが、静かな顔であつたし、僅は心から笑顔を返した。

×× アメリカ、ホン！ ××

マカッサルの郊外で自動車を買はしてゐると、不思議な材料に吸はれる。日本風に水田が展けてゐるし、竹が繁つてゐる。椰子の葉が舞いたインドネシアの家の屋根に、千木や野木など見えて、日本の古代建築物によく似たつくりなのだ。

そして路傍で遊んでゐる、素っ裸のインドネシアの子供たち。目を凝らして見ると、殊に多く上つて、四本の指は握つて拳にして、親指だけを高く頭上へ突きあげてゐる。セレベス島の四角い。

と明ぶのには、くもあふ。インドネシアの間では、素明らしいか、偉いといふので、美しうる場合に、親指を突き上げてゐる。それは、神の力を示す。偉いことに胸を張つた。

大木のネムの木の下にある。ヘッパ、ストラートを東へ行つて左へ曲ると、インドネシア人の住宅区域になる。

×× 明朗マカッサル ××

セレベス島の首都マカッサルの市街を歩いてゐると、一頃の東京のタクシーのやうに、テイガ・ロダが小さな日の丸の旗をはためかしながら群つてくる。

テイガはマレー語で三人、ロダは車輪のこと、テイガ・ロダは文字通りに客を前へ乗せて運轉手がペダルを踏む三輪車、日本のリヤカーを乗客用にしたもので、革張りの客席には足を置くところも付いてゐる。乗り心地のよいものだが、そのテイガ・ロダの運轉手は黒いトルコ帽や中折帽子をかぶつたインドネシアの青年ばかりで、ペダルを踏んで踏みながら寄つてくる。

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

×× 拳銃一挺 ××

帝國海軍特別陸戦隊が、セレベス島の首都マカッサルの攻勢に、アメン、ペトバトの海岸へ敵前上

リクリさせて微笑んでゐるが、黒い顔には敵意もよとより不安、陰険などいふ影はなくて、好意に満ちた顔であり、顔である。

マカッサルの商店街は、海岸通りウィルヘルムス・ストラートの裏から東にある。こゝにも支那華僑が経済的勢力を壟断的に占めてゐて、インド人の店やアラビア人の店もあることはあるが、支那人物といふのが相應しい。

その商店街に足を踏み入れると、日の丸の旗と青天白日旗とを交互してゐる店が多く、『日本軍大勝利慶祝』とか『歓迎日本軍』とか『日本萬歳』とか書いた日の丸の旗や紙片などが店の入口の柱や扉などに貼つてあるが、單なる糊びや、一時迷れに書いたものでない證據に、支那人の顔が明るい。

重慶政権を背後で操つてゐた米英に、敢然と挑戦して、破竹の勢で南下してきた日本の實力をみて、皮等の手ももたれらう。

時折折るスコーンに、全身が汗に濡れながら、通つて行く部客の仕度を押さ起して、機械附近の状況を尋ねると、オランダ軍の機銃が十名ばかりで橋を走つてゐるといふ言がある。ゐないといふ言がある。判然とした。

そこを渡り伏せを命じて、探偵機銃を一つずつと、その山へ夜が明けると、ペラン河の鐵橋近くの小艇に、オランダの機銃が二人の姿が見えた。

わが奇襲部隊がは然と攻撃に移らうとした瞬間、夜明けの空へ弾けて銃聲が三響、続いて轟然たる爆音が起つて、鐵橋を砕か包んだ。敵は鐵橋の四箇所に乾電池を置

×× こんちわア ××

日本では道の四つ角に立つて、何方へ行かうかと考へる時など、『さてー』といふ言葉が口を衝いて出る。

それが強く途方に暮れたり、判断に迷つたりした時には、言葉の方も強くなつて『さてー』となるが、マカッサルの街を歩いてゐると、シャッ一枚のインドネシア人が、大股で

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

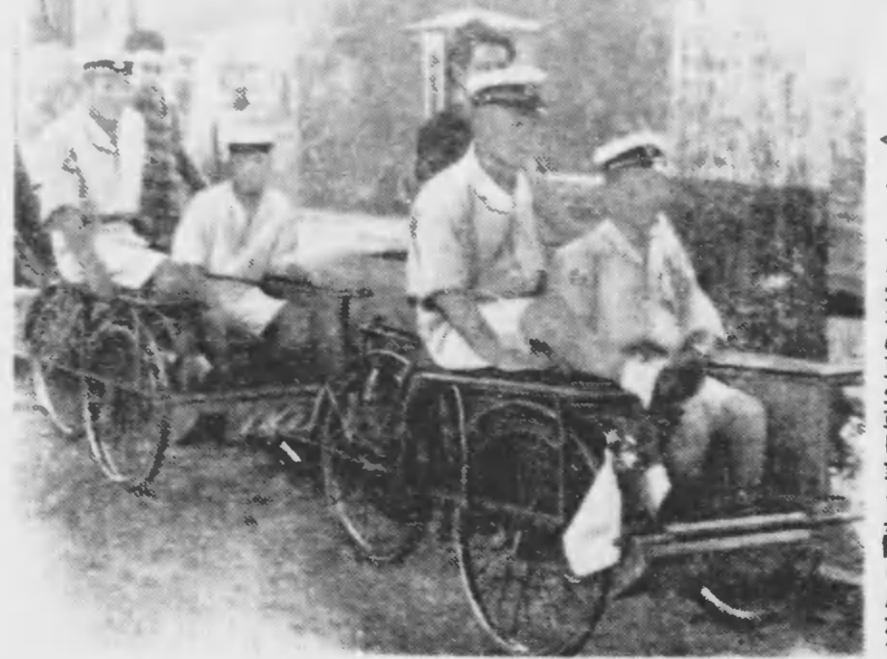
「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク

「乗るか？」
「これか？」
「言葉の日本語で呼んで、眼をク



セレベス生れの更生車に乗る兵隊さんたち

大東亞戦争日誌

一六 月
二十五日 ●アムステルダム列島方面に作戦中の陸軍軍は七日キスカ島を、八日アッツ島を奇襲し、爾後引續き附近の諸島を掃蕩中なる旨を知らせる。

といて歩いてゐる道の岐れてゐる角に立つてゐるわけでもない、林の南端に箱を下げて、それを握りてゐるところを見るとき、どうやら『サアアア』と叫び歩いてゐるらしい。後で、焼き肉を賣つてゐるのだと知つたが——
僕は長年の無學な熊さんに敬されて、品物の名でもないので呼ば歩いてゐるやうな可笑しみを覺えて、その『サアアア』が通り過ぎて行つて、間もなく、背後から子供の聲だが、簡明しうまく、発音も正しい、日本の歌が聞こえてきた。
見よ、聖歌の空をけて、旭日高く輝けは——
僕は驚いて振り返つた。汚れたシャッ一枚のインドネシアの黒い子供たちが、日本の愛國行進曲を、聲を揃へ、足を揃へて、愉快に唄ひながら行くのだ。商店街の南に、西から東へ向つて、大木のネムの並木の廣い路ホーヘッパ、ストラートがある。
それを境にして、南の方はオランダ人の住宅地であるが、その並木づたひに歩いてゐると、日傘をさしたインドネシアの中年の女が、テイガ・ロダに乗つて、二人の子供を抱へるやうにしてゐるのに出會つた。
そして擦れ違はうとした時に、三つ四つの幼い方の子供が、母親の手から身を乗りだして、こんちわア——と挨拶してゐる。通譯を出して調べると、このインドネシア人は發電所で働いてゐたセラギといふ技師で、發電機の重要部分品を持ち去つたのは、オランダ官憲の理事官だ、その時、乗つた自動車の番號も知つてゐるから、拳銃を一挺貸してもらへば、必ず自分が取り返してくるといふ。そこで拳銃を貸してやると、數日行つたとき、三日たつても、四日たつても、歸つてこない。
「逃げたか？」
電燈の點かない暗闇で、復舊に半歳かゝる發電機のことを考へて、焦憲つてゐると、五日目に、セラギ技師が自動車に部分品を積んで歸つてきた。
彼は自動車の番號を手がかりに、理事官が潜伏しつゝな山中を探し歩いて、遂に、マカッサル東方七十キロばかりの山中で、理事官を発見したので。
勿論、インドネシア人の技師セラギは、暴逆オランダへの憎恨をこめた拳銃を突きつけて、理事官を威嚇しながら、重要部分品を奪つてきたのだ。

日本には早くから少年航空兵や少年砲兵といふ制度があつて、こゝから
 歩立つた勇士は支那事變でもこんどの大東亞戦争でも實にめざましい手柄を
 立てゝをり、近くは少年砲兵も生まれることになつてゐますが、盟邦の滿洲國
 でもこんど初めての試みとして少年技術兵を國軍飛行學校内で養成してゐ
 ます。

これはますます強力な機械化をめざしてゐる滿洲國軍に遅しい感力を
 ふたために、滿洲少年の特長である器用さをうまく活かしてこれを技術の上か
 ら育てあげ、將來は國軍の技術兵科に少年兵制度を作らうとする意欲深いも
 のであつて、いま、日本のやうに強い國になるための産業五年計畫といふ
 大計畫をやり遂げようとしてゐる滿洲國が、技術の上からも大いに進歩し
 なければならぬといふ點からみても、この少年技術兵にかけられてゐる期
 待は大したものです。

さて、現在技術兵中隊に入隊してゐる少年兵は昨（庚辰）八年四月の國民學校
 卒業生から採用したものを第一期生とし、今年四月の國民學校卒業生から第
 二期生を採用、さらに、明年四月頃には第三期生を募集する豫定で、これらの
 少年兵たちは約三ヶ年間の、厳格な軍隊教育を受けた後、精密な機械製作
 時を扱ふ航空部隊の整備の方をうけ、
 つつ下士官になれることになつてゐます。
 この三ヶ年の訓練期間のうち、まづ三
 ヶ月間は軍隊としての一般教育をう
 け、次いで三ヶ月間、技術上の教育を
 さづかつてから飛行機發動機の整備に
 ついての教育をうけることは勿論、電
 氣、熔接、機械等各科について専門的
 な教育も受けることになつてゐます。

發動機工場には發動機がずらりと
 ならび、調整作業に懸命です。こ
 こで三年の教育を終れば、發動機の
 組立も立派にできるらしい少年
 技術兵が誕生します。下左

時城工場には熔接、熔接、鍛工作
 業場が設けられ、分科教育に入つ
 た第一期生が重工業部門の豆蔵
 士として機械に向つて少年らしい
 熱情を注いでゐます。



僕等は滿洲の 少年技術兵

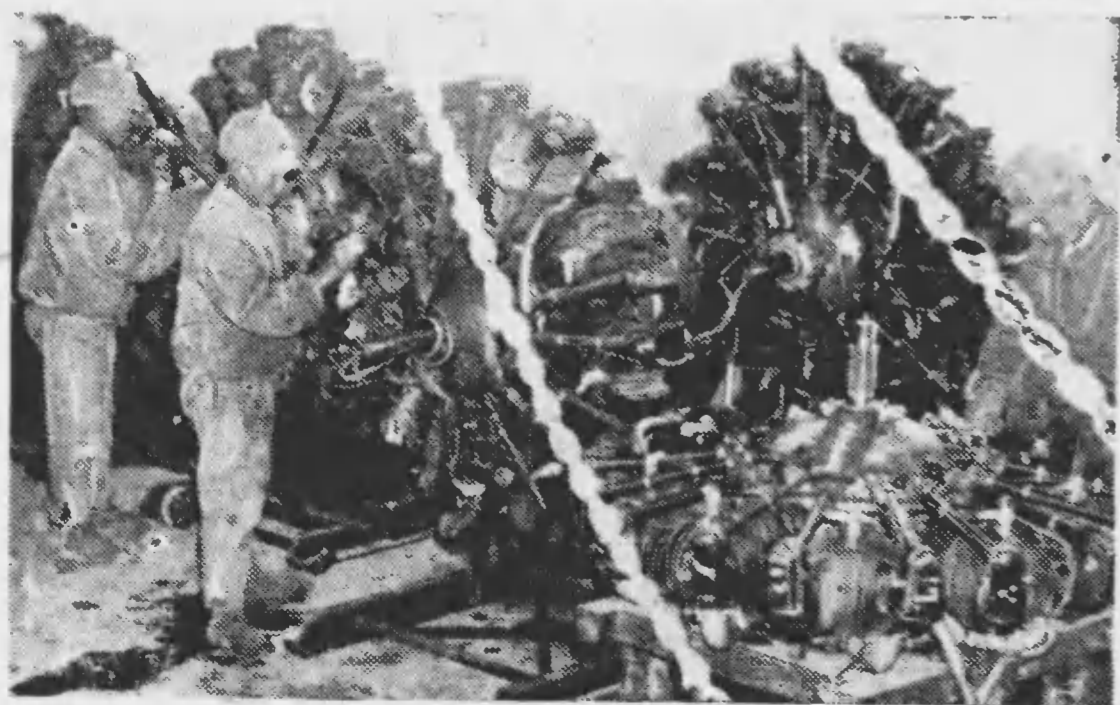
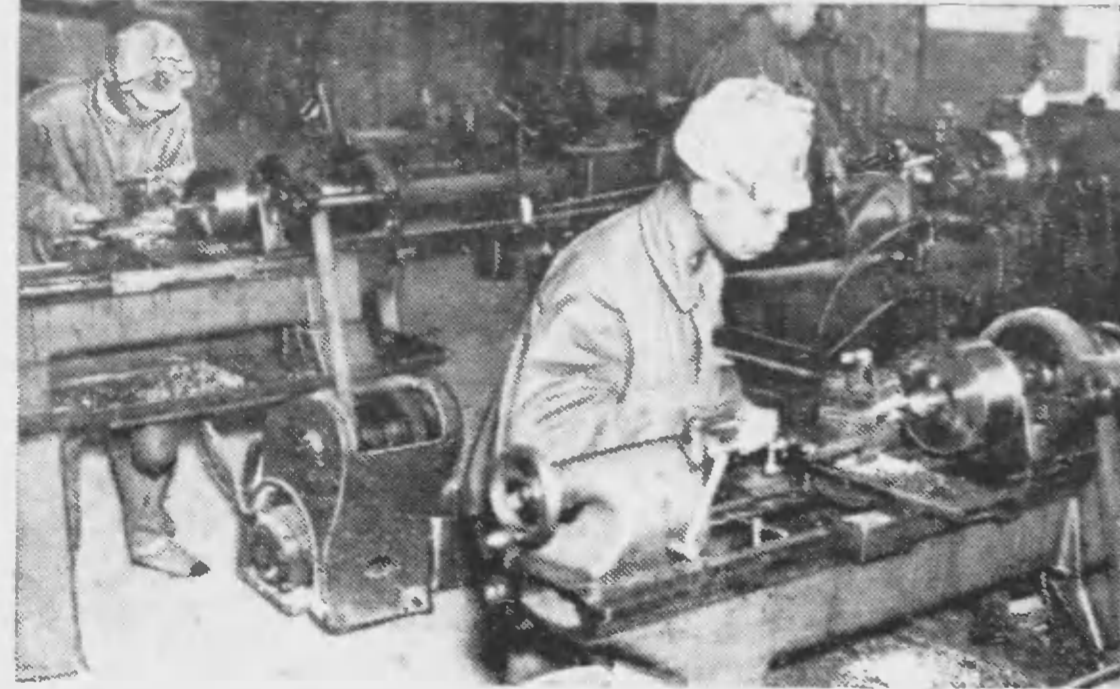
社信通交滿南 撮影



まづ立派な軍人とならねばなりません。嚴格な訓練が日一日と少年たちを鍛へてゆきます。

少年たちは午前六時
 起床、乾布摩擦、點
 呼、帝宮並に並進
 を進歩後、濃霧の
 中を行つた。

格納庫の前に飛行機
 は曳き出されました
 さあ、手入れです。
 一人前の技術兵とし
 ての希望が彼方に待
 つてゐます。



枢軸軍東西の攻勢

米英を窮地に追込む

二年目を迎へた獨り戦線

この六月二十二日は獨り戦線一周年に當る日であった。しかし、この記念すべき日を迎へたドイツの情は、特別の重くはない。恐らくドイツ國民は、過去二年の激しい對ソ戦を心にかみしめ、祖國ドイツの運命を決するはこれからだと懸念し、はや心をあさへて記念の乾杯さへ差控へたのであらう。

さて、獨り戦線の第一軍は去る五月八日、クリミア半島ケルチ方面の獨り戦線の勢によつて火蓋を切つたが、六月末までのところ、注目されてゐた獨り戦線の全面的對ソ決戦はまだ開始されない。しかし、五月の冬眠を脱して立つた獨り戦線は満を持しての殺氣が前線に漲つて、いつ破裂するかといふ種々の感さへ呈してゐる。敵も味方もこの緊張の戦野に睡意を呑んでゐるが、獨り戦線は期すところあつて五月下旬ハリコフ周辺においてソ軍の反攻を撃退して約三十萬師を殲滅した外は主としてクリミア半島方面に活潑な攻勢を續けてゐるやうである。セヴァストポリの危機がそれである。



クリミア半島のセヴァストポリの運命によつて決まるといへよう。セヴァストポリの重要なることは古代ギリシャ、ローマ時代以来幾多民族の争奪的となつてきたことによつても知られ、近世では西暦一八五三年の

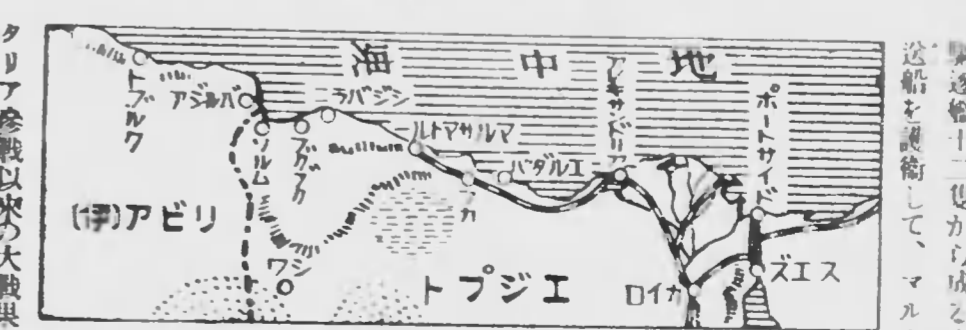
熱砂を蹴つて東へ進む北阿戦線

クリミア戦争（一八五三年）によつて有名でない、即ち獨り戦線海軍艦隊の集結地として獨り戦線を創り出した地であったのである。

そこで獨り戦線はセヴァストポリを陥してクリミア半島を確保し、同時にクリミア半島方面に戦線をすすめて西面アジア方面の進軍を企及せようといふのが、六月以来、獨り戦線の主要な目的である。六月の戦線は、これに對するソ軍の死傷者の抵抗を續けて、このころ、北阿山脈の山兵隊を展開してゐるやうである。しかし、このころセヴァストポリの危機が迫つてゐる。これは、セヴァストポリの危機が、獨り戦線の運命を決するに十分なものである。

要約トブルクが陥落したことは、この方面の戦線に於いては、重要な出来事である。トブルクが陥落したことは、獨り戦線の運命を決するに十分なものである。トブルクが陥落したことは、獨り戦線の運命を決するに十分なものである。

決定が行はれたか、如く宣傳してゐる。英首相に米大統領なるほい、願はれである。しかし、米英の同盟なるほい、願はれである。しかし、米英の同盟なるほい、願はれである。



この英艦隊はイタリア側の発表による、戦艦一隻、航空母艦二隻、巡洋艦四隻、駆逐艦十二隻から成るもので、十四隻の輸送船を護衛して、マルタ島、或はアレキサンドリアに向ふ。この英艦隊はイタリア側の発表による、戦艦一隻、航空母艦二隻、巡洋艦四隻、駆逐艦十二隻から成るもので、十四隻の輸送船を護衛して、マルタ島、或はアレキサンドリアに向ふ。



北アフリカの沙漠を東へへと急進するドイツ機甲部隊

インド洋においてはわが艦隊の假借なき出撃の前に出たは叩かれ、叩かれては逃げ廻つてゐる英海軍は、今また地中海において痛打をくらふ。蓋し、太陽の没せざる所なしといふ嘗ての豪言、今は轉じて大洋に没せざる艦なしとも言ひ換へて語調を合はすべきか。

つてゐる。と同時に、これと比例してユンブトの危機、イギリスの深憂はますます濃厚となつてゆく。果して大軍事機軸アレキサンドリア、大いで待望のスエズ攻略の日はいつであらうか。

決定が行はれたか、如く宣傳してゐる。英首相に米大統領なるほい、願はれである。しかし、米英の同盟なるほい、願はれである。しかし、米英の同盟なるほい、願はれである。

スの勢威が落ちてゆくといふことである。俗に『佛の顔も二度』といはれるが、チャーチルの今回の訪米は實に三度目のことで、許しては成り上りもののアメリカと稱してゐたその國へ三度までも膝を屈してお出かけとは、イギリスもよく、恥も外聞もないことになつたものである。

何語り合つたか敗戦の二將
以上のやうにチリチリと樞軸の攻勢が盛り上がるにつけ、頭をかきむしられる思ひのするの米英であらう。まうでなくしてさへ、大東亞戦争でい、加減天のしびれるほど強打された上に獨り戦線の手足がみつかるのだから無理はない。しかし手をこまぬいて空を眺めてゐたのでは頭がムシムシするばかりである。そこでどこにかく何とかしなければならぬ。

と、六月十八日英首相チャーチルは急いで海軍軍令官を呼びつけては、はるルーズヴェルト大統領を自軍艦に訪れた。そして、重要な交渉をしたかの如く見せかけて世界の目を八きつて一方だけで世界を動かし足る重た

と、六月十八日英首相チャーチルは急いで海軍軍令官を呼びつけては、はるルーズヴェルト大統領を自軍艦に訪れた。そして、重要な交渉をしたかの如く見せかけて世界の目を八きつて一方だけで世界を動かし足る重た

米一粒麦一粒も 増産へ

皇土に實つた一粒の米、一粒の麦——この中に無限の國力が秘められてゐるのだ。祖宗から賜はつた種子を護り育て、父から祖父から、またその祖父からと享けついできた田に畑に汗の肥料を灌いで、營々と耕してきた農土達の増産への努力、これは又子へ孫へ、そしてまたその子へ孫へと傳へ傳へられていよく美しい國土となつてゆく。皇祖のお告げ遊ばされた「豊葦原のうまし國日本」こそは君達の手でいよくうまし國となるのだ。大陸にも南方にもいまは美しく麥穂が出揃ひ、瑞々しく稻が育つてゐるであらう。だがそれを育て指導してゆくのはわれくの務めなのだ。作る者も食べる者もそこに思ひを致さう。食糧の増産に課された任務は重いのだ。

滋賀県三上山村御上神社神田の田植祭である。羽衣に身を包んだ村人は奉納した田植歌に神代以来の國産の國産の國産の國産の時下日本の豊かさを祈りまつる。村長 石東長一郎



戸田侍従 八ヶ岳山麓を視察

名も無い民草にまで注がせ給ふ長き邊りの有難い御仁慈は、つひにいたらぬ賜もなく、聖賢を奉じた戸田廣英侍従は、六月中旬、海拔四千尺日本の國境ともいふべき甲斐の山麓にまで遠征の足をよみ入れ、寒さとた、かひながらもひたすらに増産にはげむ村人たちの土の生活を観望されました。

また山々に雲を醸す霞の國を眺めつ、山峽に米つくる人たちも、谷間に掛懸く人たちも、つゞれの土を耕ひかぶりをつつて、ひとしく侍従をお迎へしたのです。

人手も足りなからう、肥料はどうかと一々訊きたゞされるもつたいなさよ。たとへ人手が足りなからうと肥料が十分でなからうと、何の勞苦ぞ何の泣きぞ——老いも若きも節くれた手に涙をぬぐつて、大御心の懸けなさにむせび泣いたことぞせう。

陛下の土を耕し、み國の實を産み出すこの尊いなりはひとこそ、子々孫々にまで受け継がせて、うまし國土をいよく豊かに増産しなければならぬと、侍従をお送りする村人たちの思ひは同じであります。

寒冷地で豊かな収穫に見入る戸田侍従

今年も増産に力をつくす 出供産増

ことし、牛島の
農産物は、若者男
女が文字通り國民
總力の奮ひをはけ
び、大躍の兵站基
地にふさはしい結
しきだ



田舎の農産物の小女ちゃん小女ちゃん
たさへ、村の井戸から水を運ぶ小女ちゃん

つひ昨年まで牛島では、婦人の外での仕事といへば、洗濯ぐらわが關の
山だつた。ところがこんどの大躍が始つて敵は米英ときまつてから、そし
てもなく息子たちも 天皇陛下の殿様として勤勞へ出るといふことにき
まつてから、彼女たちの氣持はがらりと一變した。兵隊二つの意いお役目
がわたしたちの上にかゝつてゐる、かうしてはゐられないぞ、かくて金餅
の婦人たちは期せずして普選運動へ奮ひ立つたのだ
いま朝鮮の難題、愛國黨の共同作業で大躍ひの各村落には、男に伍して
働く牛島婦人の眞剣な姿が見られ、まことに驚かすべく、男に伍して
總力の美しい風景だ
年産さつと二千五百万石、大躍下におけるわが國の食糧問題解決に大き
な役割を果してゐる朝鮮米の増産に、内鮮一體の汗を流す牛島婦人の、働
きぶりを京畿道金浦郡東面の木浦里新村に拾つてみよう

小石 嶺

農會の集會所が共同託託所にあつて、年産子供無敵も一躍の和やかさ



お井のサイレンが鳴りわたると、一齊に農具だ、工場でも田舎でも



白い牛島産は混まされたが、一國民總力を旗印に、苗をもつ農婦は前らかた



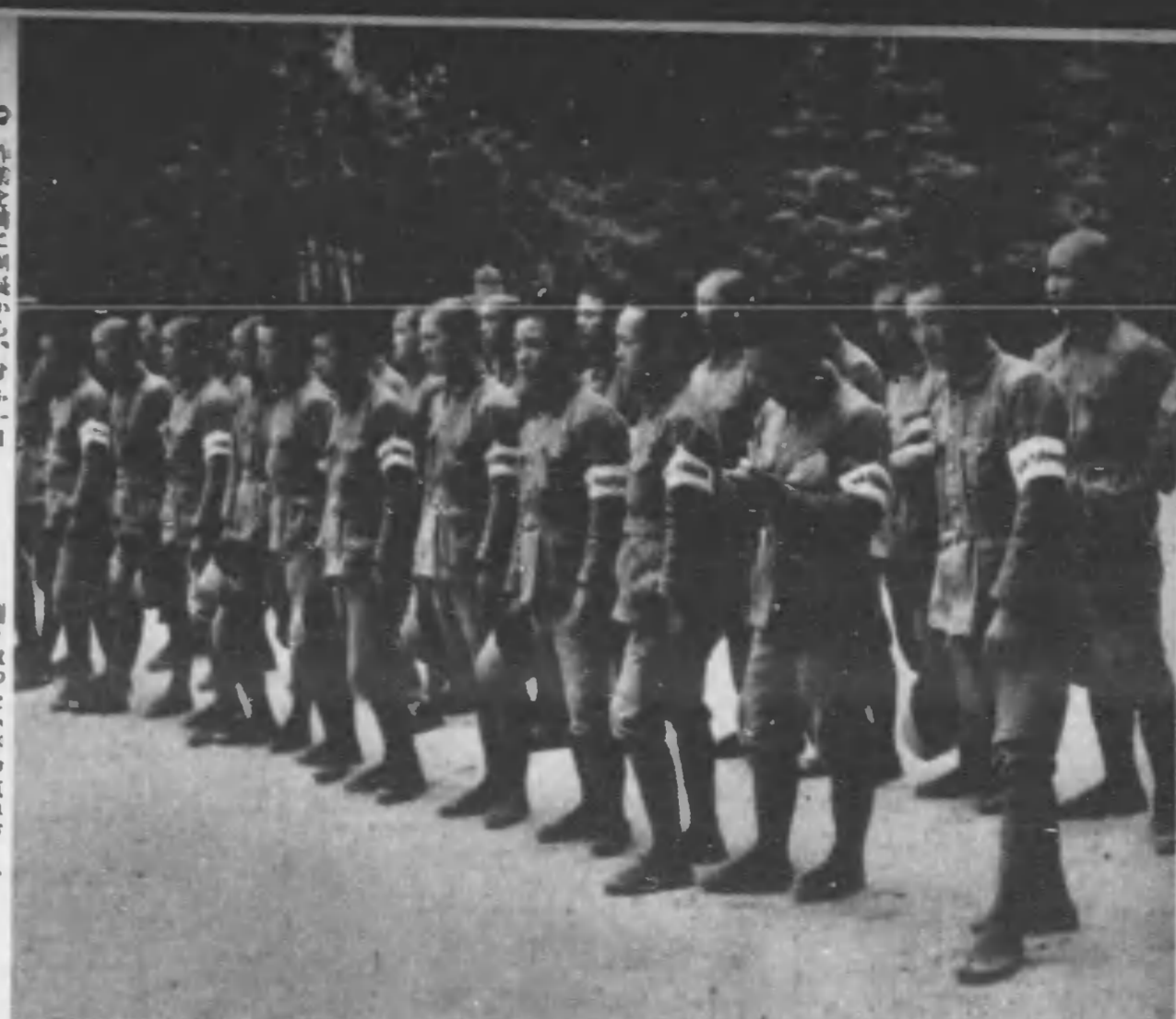


夏かに買ったたぎの東が朝にどつしり降りかゝる。光る雪の徳、かすむ緑の山、内地は美しいなあ



作業を前に所長から、けふ一日の注意や訓示を受ける機関員

刈り取った小麦の束ね方も百軒さんの見よう見真似で



増産の第一歩

隊部年青島半の援應産増

日本精神に学ばず

農家の人たちに混って内鮮一體の和やかな脱穀作業

この青年たちはそれぞれ、農家に分宿して、家族の一員として十分に奉仕し、併せて進歩した内地の農業技術をも歸國の土産にしよるといふわけで、いま大變な張り切り方です

これらの機関員のうち、京畿道から派遣された二十五名は、いま滋賀県の野洲郡中里村で田植を中心とした内鮮一體の勤勞の花を咲かせています。なほこの奉仕作業後は、内地各地の參觀を行つて、農民としての経験に最後の仕上げをすることになつてゐます

朝鮮の大政翼賛會ともいふべき國民総力朝鮮聯盟では、こんど京畿道、忠清北道、その他各地の愛國隊員聯盟推進隊員等のなかから成績優秀な青年數十名を選抜して内地に派遣し、三農政策、滋養の三顧下で憲召農家に勤勞奉仕をさせる傍ら、實生活を遍して農民としての経験を積ませることとなり、一行は六月中旬機嫌期の内地に到着、直ちに各農村に配属されました

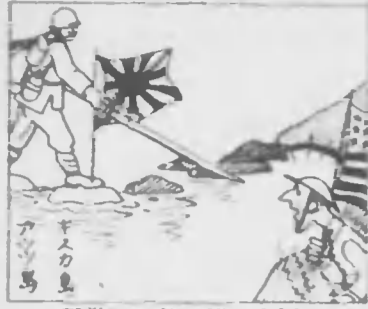
この一行はいづれも年齢十八歳から二十五歳までの青年で、出發前三日間、國民總力運動の指導者として大いに活躍を期待されてゐる。いはゞ日本精神體験の一行程です



甘藷苗の植付方も教はつて農業技術もいろいろ身につけた奉仕したから増産の第一歩、けふは田植の仕方を教はる



大東亞戰爭漫日誌
石川 進



米一担も増産へ



猫様定 ちりとり一わら



英兵の痛手 逃れは逃げ



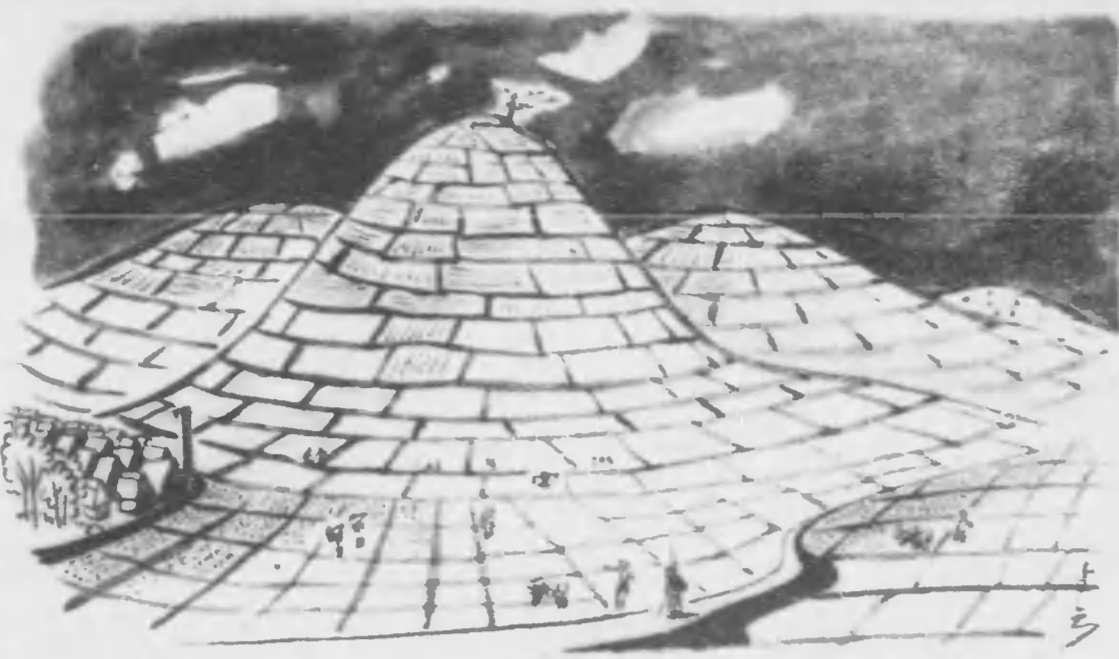
敗戦と涙の涙 涙の涙



米作の活躍 活躍の活躍



在米同胞の活躍 活躍の活躍



米一粒も増産へ

米一粒も増産へ

米一粒も増産へ



耕地面積百パーセント

共榮増産 模本映



頭をかき田舎の土産



米一粒も増産へ

水兵をながりすて

東京高等師範学校

本報からあなたは何を学んだか
1. キヤベツ軍艦...
2. 新大に鳴神島...
3. カカマール...
4. アラカとイギリス...
5. アラカとイギリス...
6. マレー語でタイガ...
7. こんどの警察...
8. 日本には少年...
9. トンガを占領...
10. マカッサムの...
11. 一週十部として...

高橋選報 昭和十七年七月九日發行 東京證券交易所 東京證券會社

設新部合組蓄貯額高



店捌賣債國用 業受引券證價有

社會式株券證池小

助之厚池小 長社役締取

内ノ丸區町總市京東 店本
岡崎・屋古名・阪大 店支

内閣印刷局印刷發行

（列債額額一A4時取之民はるう人の国々）